

が大きく関与し、血中 PTH が Riggs らの説とは異なり高値を呈する可能性が示唆された。

### 29. 心不全症例における心プールシンチグラフィを用いた拡張期指標と予後との関連

下永田 剛 西村 恒彦 植原 敏勇  
外山 卓二 林田 孝平 広瀬 義晃  
濱田 星紀 (国循セ・放診部)

心不全 (CHF) を主訴として心プールの施行された HHD 50 例 (A 群) および CHF を有さぬ HHD 11 例 (B 群) にて、左室拡張機能と短期予後との関連を検討した。A 群は左室駆出分画が正常な 16 例 (A-1 群) と低下群 34 例 (A-2 群) に大別された。拡張能の指標である早期 1/3 平均充満速度は、B 群、A-1 群、A-2 群の順に有意に低値を示した。心プールの施行後 3 年間に於ける心臓死、重症不整脈および心不全の出現率に有意差はなかった。さらに、A-1 群に比し A-2 群の 3 年間に於ける cardiac event free 曲線における cardiac event の出現率は高い傾向を示したが、2 群間に有意差はなかった。

以上より、HHD における左室拡張能低下は、心不全出現の主要因子の一つであり、予後不良の徴候であると考えられたが、短期予後との関連はなかった。

### 30. 急性心筋梗塞における In-111 抗ミオシン心筋シンチ集積程度の定量的評価

板野 緑子 成瀬 均 森田 雅人  
山本 寿郎 川本日出雄 福武 尚重  
大柳 光正 藤谷 和夫 岩崎 忠昭  
福地 稔 (兵庫医大・一内) (同・核)

【目的】急性心筋梗塞における In-111 抗ミオシン心筋シンチ (InAM) 集積の強さの定量的評価を試み、視覚的評価、臨床的指標と比較した。

【方法】急性心筋梗塞 16 例のプラナー像で心筋、肺、上縦隔、中縦隔、肝における関心領域 (ROI) 内平均カウント値を計測した。心筋-肺/肺のカウント値を InAM uptake index (IUI) とし、InAM 集積程度の指標とした。IUI と視覚的評価、左室造影 (LVG) の局所壁運動、

ejection fraction (EF), cardiac index (CI), peak CK を比較した。

【結果】各臓器の平均カウント値は、心筋  $31 \pm 6$ 、肺  $14 \pm 4$ 、上縦隔  $20 \pm 5$ 、中縦隔  $26 \pm 5$ 、肝  $75 \pm 10$  であった。視覚的な InAM の 3 段階評価と IUI の比較は、視覚的評価の grade 1:  $1.19 \pm 0.18$ , grade 2:  $1.28 \pm 0.36$ , grade 3:  $1.76 \pm 0.02$  と grade が上がるに従って、IUI も増加していた。LVG との比較では、reduced:  $1.16 \pm 0.37$ , none:  $1.34 \pm 0.08$ , dyskinesis:  $1.50 \pm 0.37$  と相関を示したが、EF, CI, peak CK とは相関を示さなかった。

【考案】InAM 集積程度の定量的評価の際に、心筋と分離が良好で、症例間のばらつきの少ない肺が control として適切と思われた。IUI は、LVG との比較から、局所心筋のダメージの程度をあらわしていたが、全体的な左室機能をあらわす指標とは相関がなかった。

【総括】InAM 集積程度の定量的評価には、肺が control として適切で、これを用いた IUI は、局所心筋ダメージを反映していた。

### 31. 完全左脚ブロックの中隔部血流動態

— $^{133}\text{Xe}$  クリアランス法による検討—

大槻 克一 杉原 洋樹 片平 敏雄  
馬本 郁男 原田 佳明 志賀 浩治  
中川 達哉 勝目 紘 中川 雅夫

(京府医大・二内)

【目的】冠動脈狭窄のない完全左脚ブロック (CLBBB) 症例において、運動負荷タリウム心筋シンチグラム上、中隔の灌流低下が高頻度に認められる。局所心筋血流量 (MBF) の実測可能な  $^{133}\text{Xe}$  クリアランス法を用い、CLBBB (または右室ペースング時) の中隔部心筋血流動態を検討した。

【対象および方法】冠動脈に有意狭窄を認めない CLBBB 2 例および正常伝導 (N) 10 例を対象とした。左冠動脈内に約 370 MBq (10 mCi) の  $^{133}\text{Xe}$  を注入し、ポータブルガンマカメラにて左前斜位より撮像した。コントロール時 (全例)、右房ペースング時 (6 例) および右室ペースング時 (心拍数 100/分: 6 例, 130/分: 8 例) にそれぞれ中隔部 (S) および側壁部 (L) の MBF を Cannon らの方法に従い Kety の式より算出し、その比 S/L を求めた。

【結果】右房ペースング時の S/L は N はほぼ 1 であっ